第４８回ＪＡ筑紫女性部通常総会

　ＪＡ筑紫女性部は５月１１日、ＪＡ本店で第４８回女性部通常総会を開催。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面議決（１６７名）で行われ、女性部役員ら２１名が参加しました。総会では、２０２０年度の活動を報告。今年度の活動計画・予算など全４議案が承認。また、古川徳子部長をはじめとする１１名の役員が選出されました。新体制となった女性部の更なる活躍と発展が期待されます。

健全な苗を丁寧に配送

　ＪＡ筑紫は、５月１３日から水稲苗の配送を始めました。４月中旬からＪＡ本店グラウンドで育てた苗を、配送員が１箱１箱丁寧にトラックへ積み込み、初日は管内の中山間地を中心に苗約１０００箱を組合員宅へ配送しました。

　これは、生産者の作業負担軽減を図るため、毎年行っています。今年は約７８０戸の組合員から「夢つくし」「元気つくし」「ヒノヒカリ」合わせて約５万２０００箱の予約注文がありました。６月下旬まで、苗を積んだトラックがグラウンドから出発し、組合員のもとに届けられます。

　担当者は「農家に喜ばれるように健全な苗を届けたいです」と話しました。

はだか麦収穫

　ＪＡ筑紫麦出荷者部会は５月１４日から５月下旬まで、はだか麦の収穫を行いました。

　ＪＡ管内では、４３経営体の部会員がはだか麦や小麦約３２６ha を作付しています。１月中旬から４月まで気温が高めで少雨傾向だったため、生育は良好。成熟期は平年よりやや早くなりました。初日は、はだか麦約２４０ｔの収穫を行いました。

　ＪＡの担当職員は「記録的に早い梅雨入りとなりましたが、梅雨の晴れ間を狙って適期刈り取りを徹底し品質の維持に努めました」と話しました。

　部会は、はだか麦「イチバンボシ」と小麦「チクゴイズミ」を生産し、播種から刈り取りまでの作業工程の管理を徹底。高品質維持のため、研修会や視察、圃場巡回を重ね、部会の統一を図ります。

ＪＡ筑紫肥育牛部会総会

ＪＡ筑紫肥育牛部会は５月１７日、第４８回ＪＡ筑紫肥育牛部会通常総会を開きました。部会員と関係機関、ＪＡ役職員１２名が参加。

総会では、新たに平嶋健太郎さんが部会長に承認された他、２０２０年度の活動報告や、２０２１年度の活動計画など全４議案が承認されました。２０２０年度は、新型コロナウイルスの影響により販売促進活動等は実施できませんでしたが、除角・削蹄を徹底した飼養管理により、肉質と産肉性の底上げを図りました。枝肉重量やロース芯面積、脂肪交雑等級といった出荷牛の格付成績は、昨年を上回り、平均ＢＭＳは８番を超える結果となりました。２０２１年度は、引き続き出荷牛の肉質の向上・安定及び枝肉重量の増加を目指します。また、県や関係機関と協力し、積極的な「博多和牛」のＰＲ活動を行い、地域に根差した県の銘柄牛としての認知度向上に努めます。

各地区で田植え

ＪＡ筑紫管内で、水稲の田植えが始まりました。ＪＡ管内の水稲作付面積は約６８０ha。「夢つくし」の栽培は、ＪＡ管内で３分の１を占めます。

５月１８日には、真鍋昭洋さんが那珂川市市ノ瀬で、２０a の田植えを行いました。真鍋さんは「今年産も病害虫に注意しながら、低農薬で品質の良い米を作りたいです」と意気込みました。

田植えは６月下旬までＪＡ管内の各地区で行われ、肥培管理と病害虫対策の徹底で品質の向上に取り組みます。

第１０期ちくし農業塾閉講式

ＪＡ筑紫は5月２６日、ＪＡ本店で第１０期ちくし農業塾閉講式を開きました。修了生７名は約１１カ月間に及ぶ講義と実習が終わり、今後はＪＡ直売所出荷者や生産部会員の一員として活動する予定です。

式には、ＪＡ役職員など１０名が参加。修了生には、修了証書と記念品の三角草削りが手渡されました。講師を務める室園正敏さんは「農業塾で学んだことを生かしながら、自分自身で技術を磨いて野菜の栽培をしてほしいです」と修了生を激励しました。修了生は、「自分に合った品目を見つけて力を入れていきたい」「直売所に多くの野菜を出荷できるよう、学んだ知識と技術を生かしながら頑張りたい」など、一人ひとり今後の決意を強く語りました。

ＪＡは、新規就農者や農業後継者の育成を目的に２０１１年から農業塾を開講。露地野菜や施設園芸の栽培実習と講義を行っています。１期から９期までの修了生は８６名。そのうち７１名が直売所出荷者や生産部会員として活躍中です。